

<欧米の日本研究> 08 カザフスタンにおける日本研究：現状と課題

著者	アンダソヴァ マラル
雑誌名	世界の日本研究
巻	2017
ページ	100-106
発行年	2017-05-30
特集号タイトル	国際的視野からの日本研究 Japanese Studies from International Perspectives
URL	http://doi.org/10.15055/00006648

08 カザフスタンにおける日本研究

——現状と課題——

アンダソヴァ・マラル

はじめに

カザフスタンというと、もっとも古い交易路とされるシルクロードが思い浮かぶ人が多いだろう。カザフスタンの草原（ステップ地帯）は紀元前4世紀からスキタイや匈奴といった多くの遊牧民（騎馬民族）が住み、東西の文化交流の役割を担っていた地域だったといえるだろう。

こうした文化的背景の中で、15世紀末にカザフ・ハン国が形成するが、18世紀からロシア領となっていく、1920年にソビエト連邦に編入されていく¹。ソビエト連邦崩壊後、1991年12月16日にカザフスタン共和国として独立し、1991年12月21日に独立国家共同体（CIS）に加盟している。

現在のカザフスタンはユーラシア大陸の中心に位置している、世界第9位の広大な国土面積（2,717,300km²）を有している国である。人口は16,967,000人であり、ロシア人、ウクライナ人、タタール人など100ほどの諸民族から形成されている。カザフスタンは中央アジアにおける多民族、多宗教国家として、日本からも注目されるようになってきているのである。

日本との外交関係は、独立翌年の1992年1月26日に樹立されている。翌1993年1月20日に旧首都アルマトイに在カザフスタン日本大使館が開設された²。

独立後のカザフスタンでは、技術国家としての日本への関心が極めて高く、新首都アスタナの設計図は日本の建築家、黒川紀章によってつくられたものである。また、両国においてお互いの国の文化を紹介するコンサート、展覧会、スポーツイベント、シンポジウムなどの催しが開催され、文化的、学術的交流が行われてきている。こうした中で技術やロボットに関心を持つ若者のみならず、日本の伝統文化に興味を持つ人も増えてきているのである。このようなカザフスタンでは日本研究はどのように行われているのか、本稿において概観する。

1 カトリーヌ・ブジョル『カザフスタン』宇山智彦・須田将訳、白水社、2006年。

2 2005年1月1日、カザフスタンの遷都により、日本大使館はアルマトイからアスタナに移転した。その時に開設されたアルマトイ出張駐在官事務所は2014年1月1日に閉鎖している。一方、在日カザフスタン大使館は1996年2月22日に開設している。在カザフスタン日本大使館ホームページ。（<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/kazakhstan/data.html#section3>）

1. カザフスタンの日本研究の第一期——ソビエト連邦の時期（1920～1991）

ソビエト連邦の時期、カザフスタンには日本語・日本文化を学ぶ高等教育機関はなかった。そのため日本語学習、日本研究を行うためにロシアにある高等教育機関に留学するしか方法はなかった。

ロシアにおける日本研究は18世紀に始まり、ソビエト連邦成立以前（18～20世紀初頭）、ソビエト連邦の時期（1920～1991）、ソビエト連邦崩壊後（1991～現在）はそれぞれ性格を異にしつつ、さかんに行われている。日本研究を代表する高等教育機関は、モスクワ国立総合大学付属アジア・アフリカ諸国大学、サンクトペテルブルク国立総合大学、極東国立総合大学などがある³。

2. カザフスタンにおける日本研究の第二期——独立後（1991～現在）

日本語学習・教育

1992年1月のカザフスタンと日本の外交関係樹立から間もなく、日本語教育が相次いで始まった。同年9月アル・ファラビ名称カザフ民族大学東洋学部極東学科において日本語部門が開設され、A. A. カマルディノフ講師、H. Okawa講師の指導のもと、日本語教育が行われ、翌1993年にアブライ・ハン名称カザフ国際関係外国語大学において東洋学部極東言語学科日本語部門も設置された。

2016年7月現在、日本語を主専攻とする大学は、上記のカザフ民族大学、カザフ国際関係外国語大学の他に、首都アスタナにあるL. N. グミリョフ名称ユーラシア国立大学国際関係学部東洋学科の3校である⁴。カザフ民族大学において主専攻（第一外国語）、カザフ国際関係外国語大学、ユーラシア国立大学において主専攻、選択科目（第二外国語）として日本語が教えられている。

2007年9月にカザフ国立大学において、日本語専攻の大学院修士課程が設立され、2012年に東洋歴史コースから博士課程への進学者が1名、2014年にも1名が認められている⁵。日本語コースが設立された当初は日本語教育が中心となってい

3 矢沢理子「ロシアの日本語教育事情——その伝統的授業理論と現在の動向をめぐって」『日本語教育学会秋季大会予稿集』京都外国語大学、1996年10月、エカテリーナ・レフチェンコ「ロシアにおける日本研究の過去と現在」『世界の日本研究 2014』国際日本文化研究センター、2015年。

4 2009年度までカザフ経営経済戦略大学（KIMEP）とアバイ名称カザフ民族教育大学においても日本語教育が行われていたが、現在は行われていない。また、第二外国語コースがあったカザフ民族大学国際関係学部においても2013年度夏に閉講された。

5 カザフ民族大学東洋学部極東学科紹介文章。カザフ民族大学東洋学部極東学科所蔵。

たが、近年、歴史、宗教、文化という幅広い分野へと関心が広まっている。また、スレイメノフ名称東洋学研究所にも東洋学の一つとして、日本研究がスタートしている⁶。政治学、社会学という幅広い視座からアプローチがされている。

留学に関しては、カザフ民族大学、ユーラシア国立大学は大学間交流協定などにより、筑波大学、北海道大学、東京外国語大学、早稲田大学などと毎年2～10名程度の交換留学を行っている。

大学教育以外に、2002年よりアルマティにカザフスタン日本人材開発センター（日本センター）が創設され、初級・中級のレベル日本語コースが開設されている。年間を通じて約400名近くが受講している。また、2006年より首都アстанаでも日本語コースが開かれており、年間約100名が受講している⁷。

また、日本センター及び日本語教育を行っている大学では、日本大使館の協力のもと、毎年、茶道、書道、和紙づくりなど、学生、受講者向けの日本文化ワークショップが開催されている。さらに、日本語学習推進のため、日本大使館、国際交流基金の協力のもと、日本語弁論大会が毎年カザフ民族大学、カザフ国際関係外国語大学で相互に開催されている。カザフスタン全土の日本語学習者及び教員の交流の場となっているのである。

以上に見てきたように、カザフスタンでは日本語を主専攻とする大学は全国で3校あり、また大学以外に日本センターなどにおいて日本語教育もおこなわれている。高等教育機関のみならず、幅広い層へと日本文化を伝えるための事業のため、日本への関心が増してきている。

だが、高等教育機関においても独立した日本語学科というものがなく、東洋学・東洋言語学の一部として日本語教育が行われている。また、研究機関においても、日本研究は東洋研究の一部として行われているのが現状である。

日本研究

高等教育機関においては、日本語教育、日本語、日本文化に関する研究が行われてきている。カザフ語・日本語辞書の作成などがその代表的な研究成果である。また、政治史、現代史、社会史の視点から日本と中国、日本と韓国という交流及

6 スレイメノフ名称東洋学研究所ホームページ (<http://www.invest.kz/struct/east/>)。

7 国際交流基金『2014年海外日本語教育機関調査』(<https://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2014/kazakhstan.html>)。上記コース以外には、アルマトイ市内において、民間学校1校で日本語が教えられている。さらに、地方都市においても自主的に日本語を学習する例が見られる。

び問題に関する学位請求論文も執筆されている。こうした研究成果は、大学教育の教材の作成にも反映されている。以下は具体的な事例を紹介していきたい。

①辞書類⁸

Ш. Т. Сауданбекова, А. М. Нурелова, А. Т. Мухаметрахимова, Айки Каё Тілашар. *Жапон, қазақ, орыс, ағылшын тілдерінде* (慣用句集——日本語・英語・ロシア語・カザフ語), Алматы: Қазақ университеті, 2015.

Ж. Б. Амантай, С. И.Кадикова, Б. К.Акын, А. Сайто, А. Хасимото, Т. Ивагаки. *Жапонша-Қазақша саяси-экономикалық терминдер сөздігі* (カザフ語・日本語政治・経済用語辞典). Алматы: Қазақ университеті, 2015.

②博士学位請求論文⁹、学術著書

О. Б. Дуйсебаев. «Политические аспекты казахстанско-японских отношений (日本とカザフスタンの政治交流のアспект).» Алматы, 2002.

Д. В. Козельский. «Исторические аспекты современных проблем в корейско-японских отношениях (現代における日本・韓国問題の歴史的背景).» Алматы, 2005.

Н. Ж. Шаймарданова. «Демократизация политической системы Республики Казахстан и Японии: сравнительный анализ (カザフスタンと日本の政治システムの民主化——比較分析).» Алматы, 2008.

Ж. Е. Ашинова. «Япония - КНР: динамика развития политико-экономических отношений (1949–2009 гг.) (日本と中国——政治及び経済交流の推進 (1949–2009)).» Алматы, 2009.

アンダソヴァ・マラル『古事記 変貌する世界——構造論的分析批判』(原文日本語) 佛教大学研究叢書21、ミネルヴァ書房、2014.

8 カザフ民族大学図書館所蔵。東洋学部教員出版物紹介HP (<http://pps.kaznu.kz/ru/Main/ChairPublications/96/0/>)。

9 カザフ民族大学図書館所蔵。図書館HP (<http://elibrary.kaznu.kz/ru/>)。

③教材¹⁰

- С. Т. Абдумомунова. *Типовая учебная программа курса "История религий Японии"* (「日本宗教史」教材). Қазақ университеті, 1998.
- С. Т. Абдумомунова. *Типовая учебная программа курса "История культуры Японии"* (「日本文化史」教材). Қазақ университеті, 1999.
- Ж. Е. Ашинова. *История взаимоотношений Японии и КНР* (日本・中国交流史). Қазақ университеті, 2012.
- У. А. Амирбекова. *Minna no Nihongo I, II Аударма және грамматикалық түсіндірме* (みんなの日本語初級1 翻訳・文法解説カザフ語版2). Қазақ университеті, 2013.
- С. К. Боранкулова, *Көпшілікке арналған жапон тілі. Аударма және грамматикалық түсіндірме. 2-бөлім* (みんなの日本語翻訳・文法解説カザフ語版2). Қазақ университеті, 2013г.
- Ж. Е. Ашинова. *Политическая модернизация Японии и Республики Казахстан* (日本・カザフスタンの政治的近代化), Қазақ университеті, 2014.

④學術雜誌¹¹

カザフ民族大学において1997年以降『カザフ民族大学紀要 東洋学叢書』という東洋研究関連の學術雜誌が出版されている。雜誌では大学院生及び大学教員の研究成果が発表される形をとっており、現在50件以上の論文が確認できている。その他にも『歴史叢書』、『教育叢書』にも論文が多数報告されている。以下、研究テーマに分けて具体的に紹介する。

政治、社会、歴史、宗教について

- Л. Д. Нурсейтова. «Роль женщин в японском обществе (日本社会における女性の役割).» Вестник КазНУ, серия востоковедения (カザフ民族大学紀要 東洋学叢書). 2012, №1.
- Ж. Е. Ашинова. «Полиическое сознание японцев как механизм реализации политической модернизации в Японии (政治的近代化を実現するメカニズム

10 カザフ民族大学図書館所蔵。東洋学部教員出版物紹介HP (<http://pps.kaznu.kz/ru/Main/ChairPublications/96/0/>)。

11 カザフ民族大学図書館所蔵。東洋学部教員出版物紹介 (<http://pps.kaznu.kz/ru/Main/ChairPublications/96/0/>)。WEB閲覧可能の論文が多い。

としての日本人の政治的認識)» Вестник КазНУ, серия историческая (カザフ民族大学紀要 歴史叢書). 2014, №2.

Л. Т. Балакаева. «Религиозная ситуация в Японии в период правления династии Токугава (1603–1867 гг.) (徳川十五代における宗教事情 (1603–1867) . » Вестник КазНУ, серия востоковедения (カザフ民族大学紀要 東洋学叢書). 2014, №2.

Ш. Т. Сауданбекова. «Феномен сёгунской власти в средневековой Японии (中世日本における将軍政権)» Вестник КазНУ, серия востоковедения (カザフ民族大学紀要 東洋学叢書). 2014, №3.

日本語学習、言語と文化について

Г. Н. Бахаутдинова. «Аниме и манга - методы изучения японского языка (アニメと漫画——日本語学習の方法として)», Вестник КазНУ, серия востоковедения (カザフ民族大学紀要 東洋学叢書). 2011, №4.

Ж. Б. Амантай. «Концепт семья казахской и японской лингвокультурах (カザフ語及び日本語における家族コンセプトについて)» Японский язык в вузе (大学における日本語). 2012, №8.

А. Н. Бекебасова. «A research agenda for contrastive analysis of Japanese and Kazakh: The case of grammar and pragmatics (日本語とカザフ語の対比的分析—文法と実用)» Вестник КазНУ, серия востоковедения (カザフ民族大学紀要 東洋学叢書), 2015, №4.

М. Т. Шадаева. 「依頼行為における格下げの範疇の築：カザフ語に適した範疇の場合」(原文日本語), Вестник КазНПУ им. Абая, серия "Педагогические науки" (カザフ民族教育大学 教育叢書). 2015, №4.

А. М. Токкарина. «Жапон жазуындағы иерегліфтердің қазіргі кездегі жағдайы (現代における日本語の漢字の事情)» Вестник КазНУ, серия востоковедения (カザフ民族大学紀要 東洋学叢書). 2016, №1.

結びにかえて

以上に見てきたように、カザフスタンでは日本との文化交流が図られ、日本語教育がさかんに行われてきている。

日本語教育が始まった当初は言語教育が中心であったが、近年は歴史、社会、宗教、言語、文化という幅広い分野へと関心がシフトしていることが見えてくる。

また、大学院への進学が可能になったこと、東洋学研究所において日本研究がスタートしたことなど、言語教育のみならず、日本研究そのものを形成し、向上させていく試みが見える。こうしたなか、カザフスタン大学の大学院生及び教員によって、カザフ・日本語辞典、学術論文、教材などの研究成果が発表されている。

だが、高等教育機関において独立した日本語学科というのがなく、東洋学・東洋言語学の一部としての日本語教育が行われている。また、研究機関においても、日本研究は東洋研究の一部としてしか行われていないのが現状である。

独立した日本学を形成すべく、カザフスタンは国際的な広がりの中なかで、日本研究の歩み及び成果を学ぶ必要があるだろう。ロシア語圏、及び英語圏における日本研究へと視野を広げ、また日本とも学术交流を推進することが今後の大きな目標となっていると言えるのである。